

<p>地域リハネット構築事業へ参加をご希望の方へ・・・今後の予定</p> <p>7月2日 講演会において、詳細の説明・参加希望者の受付開始・・・</p> <p>8月5日 審査会において参加者の決定・・・</p> <p>8月19日 決定した参加希望者のための説明会</p> <p>2月・11月 身体機能・日常生活動作評価の会合の開催（ご参加ください）</p>	<p>特定非営利活動法人 バイオフィリアリハビリテーション学会 251-0871 神奈川県藤沢市善行7-5-4 FAX 0466-81-8815 TEL 0466-81-0204 E-mail takizawa@civilnet.org</p> <p>（独立行政法人福祉医療機構長寿社会福祉基金助成事業）</p>
--	--

## バイオフィリアリハビリテーション学会とは

木村哲彦（元国立障害者リハビリテーションセンター病院院長、現国際医療福祉大学教授）、滝沢茂男（バイオフィリア研究所有限会社研究員）が中心になって、バイオフィリア リハビリテーションの普及により、高齢障害者であっても尊厳を確立でき、介護依存から自立へ向かうことができる社会を実現し、同時に高齢を許された人類の健康寿命を延伸し、国民生活の安定と人類の福祉向上に寄与することを目的として設立されました。

- (1) 学会開催 今年の学会は8月6日に慶應義塾大学環境情報学部において開催
- (2) 国際学会開催 今年の学会は9月23日にドイツ国立リウマチセンター（ベルリン）において開催
- (3) ホームページ事業。http://biophilia.info/

その他、リハビリの研究、機関誌の発行事業、研修会開催、第三者評価事業などを実施しています。

## タキザワプログラムによる創動運動について

これまでのリハビリの機能訓練は、神経・筋促通法によっており、リハビリの機能訓練の手法ではボース、ロード、グリーブなど先人の業績から生まれたものが知られています。こうしたこれまでのリハビリテーションの結果、我が国における要介護老人の介護度は重度化が進んでおり、その実際は平成15年8月分介護保険事業状況報告

（要介護度別認定者数の推移）に明らかで、対2000年比要介護度5は51%増、要介護度4は32%増、平均で67%増と看過できない数で増加しています。開発されたりハビリロボットの効果報告は施術直後の物に限られ、3ヵ月後の改善効果は報告されておらず改善効果が認められないのであろうと推測しています。

神経・筋促通法はリハ分野で愛用されていますが効果ありとの説と効果なしとの説と2分されているのが現状です。我々は日本発のタキザワと名づけた顕著な効果をあげる、「患者自身の意欲を最大限に引き出し、患者の健側で開発器具を利用し患側を運動する創動運動を、座位で患者自身が行う」手法の追跡を、公的研究費助成を得て続けています。近年国際学会も組織され、また大きく報道され国際的評価を得ています。今回の研究事業はこれらの事実から生まれました。

在宅リハと、拠点施設のネットワーク、在宅における栄養管理を含めた地域リハビリテーションネットワーク（バイオフィリア リハネット）事業の先駆的な研究事業です。

## 参加を希望される方に

今後の日程は、7月2日に募集のための講演会を「豊後大野市エイトピア おおの」において開催します。参加をご希望の方や、内容を確認したい方は先着200名が参加可能です。なお事前の申し込みもFAXとE-mailで受け付けます。

参加対象者に制限はなく講演会は全国からご参加いただけますが、

豊後大野市近郊に在住の在宅高齢障害者及び家族・関係医師・医療関係者・福祉用具エンジニアのご参加が望まれます

講演を予定している、新潟医療福祉大学牧田光代教授からは「運動の実際」、川崎病院の森田能子医師からは「これまでの研究の成果」を、岡本病院の岡本雄三理事長からは「望まれる地域リハビリ」について、最後に滝沢茂男研究員からは「研究の内容、参加方法」などが説明されます。

その後、地域リハネットへの参加希望者が50名を上回った場合は、8月5日に、神奈川県藤沢市において、学会関係者が公平を期して審査会を開き参加者を決定します。（参加希望者は参加判定経費500円が必要です。）

続いて エイトピアおおのにおいて8月19日に参加者に向けた実施説明会を開催します。地域リハ・ネット参加者と家族のための講習会です。

在宅高齢者の運動機能改善のために、自宅で出来る機能訓練の方法を知らせるためのもので、マニュアルと実施方法を説明したビデオを配布します。介護保険関係者には評価方法を指導します。

バイオフィリア リハビリテーションの要素であり、健康に関連の深い栄養についてのいろいろな説明も予定されています。

参加者の当初の身体機能状態を評価した後に、リハ実施となります。研究参加者は意思確認のため若干の資料費をご負担いただきます。

## 基幹施設

ネット構築に関する事業は基幹施設が必要になります。今回は、岡本病院の介護関連の通常業務と連携し、在宅と施設での間で切れ目のないリハ・ネットを参加者に提供する予定です。介護保険関係者の同意があり、身体状況や日常生活の様子に関する開示が可能で、実施後の健康状態の変化や自立獲得状況について評価等の事業に参加可能な場合は、どの施設も研究事業を行う基幹施設として参加できます。この件に関するご希望は学会へお問い合わせください。経過と結果の評価は学会のリハ専門家が、11月初め頃と2006年2月初め頃に岡本病院の関連施設を会場に行います。

## 期待される効果

この高齢者自身による地域リハ・ネット構築事業を行うことにより、高齢障害者の歩行・移動自立（歩行補助具を利用するものを含む）と日常生活動作の向上が図られ、次のような効果が期待できます。

- ア. 高齢障害者の歩行・移動自立と日常生活動作の向上が可能になる。
- イ. 身体機能と日常生活動作の向上が可能なりハ手法の普及する。
- ウ. 安全で簡便な地域リハ・ネットの構築が全国で可能になる。
- エ. 要介護度が低下することから、社会保障関係費の削減が可能になる。

（平成17年5月24日時事通信厚生福祉5288号掲載記事に加筆修正）